

工学部 社会システム土木系学科

募集人員(予定)
2人

3年 | 菊川 康介 さん (きくかわ こうすけ) [鳥取県立八頭高等学校 出身]



鳥取のお気に入り

大山絶景ロードをツーリング

中国地方で一番高い山「大山(だいせん)」をバイクでツーリングするのが大好き。新緑の頃、ブナ林のトンネルの下を走るの最高に気持ちいいですよ。途中の展望台から望む山頂も絶景!

■ 願書も面接も具体的な表現と熱意が肝心

地震・台風・異常気象など、近年自然災害が多い日本。僕は父と一緒に防災器具の考案に取り組んでおり、将来は防災分野での起業を考えています。鳥大工学部は防災について自分の考えと近い研究をしているし、地元の国立大学という親近感もあったので、高1のときには既に「鳥大工学部一本」と決めていました。AO、推薦I・II、一般入試の前期・後期まで、5つの受験チャンスすべてを生かすつもりでしたが、メインはAO。それを見据えて勉強も部活も積極的に取り組みました。

願書は、「なぜ鳥大なのか」「自分の強みは何か」を明確かつ具体的に表現することに注力。1次選考の1カ月前からはほぼ毎日面接練習に励みました。学校の先生も相手をしてくださったけど、実は一番厳しかったのは両親。「何を問われても自分の理論がぶれないように」と、突っ込んだ質問の嵐。でもそのうちに、「質問は自己アピールのチャンスだ」と思えるほど余裕ができました。本番では、練習どおり話せたせいかそれほど質問されず、逆に寂しいくらいでした(笑)。

■ 工学の知識&社会問題にアンテナを張ろう

講義等理解力試験は過去問の情報が少なく対策に困りましたが、とにかく講義に集中して積極的にメモを取ることが大事ですね。当日のテーマはごみの収集問題について。計算問題が多かったので、ケアレスミスだけはしないよう注意しました。

小論文は、高3の春からずっと工学部用の過去問で練習。中学生のときたくさん本を読んでいたことも功を奏し、困ることなくクリアできました。苦手な人はしっかりと対策を。また、知識のない分野からの出題だと何も書けないので、工学に関係ありそうな時事ネタを調べておくのも忘れずに。口頭試問で問われる数学・英語は基本的なことなので、普段の勉強を怠らなければ大丈夫だと思います。

AOは情報収集が重要。AO入試ガイドは過去2年分をチェック、大学案内・HPもかなり読み込みました。高校のOBに鳥大工学部出身の方がおられたので、先生を通じて連絡を取り、面接ではどういったことを尋ねられるのかなど、試験内容を直接伺うことができたのは大きなメリットでした。早めの準備が“吉”です。

平成29年度AO入試 第2次選考 <選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成29年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成30年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、AO入試の過去問題は、平日の9:00~17:00に、鳥取キャンパスは入試課、米子キャンパスは医学部学務課で閲覧することができます。

全体を通して
求める力

社会システム土木系学科では、工学に関わる専門的な知識とともに、社会のしくみに関わる幅広い知識を持ち、安全で安心な社会の構築に貢献できるエキスパートの育成を目指しています。数学・理科の力とともに、高校時代に履修できるあらゆる科目や活動を通じて積極的に学び、社会のさまざまな課題について多面的にとらえるための幅広い教養を養ってください。

講義等理解力試験

講師(1名)が、本学科の教育内容や研究内容に関する講義(60分)を行い、その後、講義内容に関する筆記試験(60分)を行いました。

小論文

今の日本において人口減少・高齢化が進んでいる原因や背景、ならびに、公共施設や公共サービスの維持の面で人口減少が引き起こす社会的な問題とそれに取り組む方法について、自分の知っていることや自分の考えを、60分間で論述するものでした(800字以内)。

個人面接

5名の面接官による、1人あたり15分の面接を行いました。

口頭試問

5名の試験官による、1人あたり15分の個人試問を行い、基礎学力(数学、英語)を確認しました。